

青少年の体験活動等の重要性にかかる普及・啓発事業

「親子キャンプ」

～ササビーと遊ぼう 冬編～

1. 趣旨

- ①「冒険と創造の森を活用した運動プログラムの開発委員会」で開発した、「幼児期の遊びを中心とした運動プログラム」を幼児の発達段階に応じ、親子で実施する。
- ②親子で雪遊びや調理活動を通じて、自然体験の楽しさに触れるとともに、親子の交流を深める。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和3年2月13日(土)～14日(日)

(2) 参加者

- ①参加対象 幼児(年中、年長を含む)とその保護者 ※兄弟がいる場合も可
- ②参加人数 23名(8家族) (応募総数37名)
群馬県前橋市2家族、高崎市3家族、昭和村1家族、
東京都豊島区1家族、神奈川県川崎市1家族

3. 企画運営のポイント

- ①冬の赤城山の自然を満喫する「雪遊び」と季節の行事である「チョコレート作りとすいとん作り」を実施することで、家族が楽しむ自然体験や文化体験の機会と場を提供する。
- ②「雪遊び」では、興味関心を持って進んで遊べるよう、スカイボード等、場の工夫を行う。
- ③「調理活動」では、幼児でも調理に参加できるように、チョコレートにデコレーションをしたり、すいとんの生地を混ぜたりするなどの簡単な工程で行う。

4. 日程

	午前	午後	夜
2月 13日 (土)		開会式 雪遊び	「絵本の読み聞かせ体験会」 講師：前橋市読み聞かせグループ連 絡協議会(高橋陽子、馬場由佳里)
2月 14日 (日)	調理活動 ①チョコレート作り ②すいとん作り	閉会式	

5. 主な活動内容



「雪遊び」



「雪遊び」



「雪遊び」



「絵本の読み聞かせ」



「チョコレート作り」



「すいとん作り」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足7家族(88%) やや満足0家族 やや不満1家族(12%) 不満0家族

(2) 参加者の声

- ・親子キャンプは、ただの「遊び」だけではなく、子供にとっての学びがたくさんつまっているので、また機会があれば、参加させていただきたいです。
- ・コロナ渦の中、人と人とのつながりを広げるのが難しいですが、プログラムに参加でき、子供たちの笑顔がたくさん見られて嬉しく思います。
- ・同年代の子供さんから刺激を受け、掃除などに取り組んだり、スタッフの方に褒めていただいたりしたことも励みになったようです。

(3) 成果

- ①雪が豊富な「赤城山第三スキー場」で雪遊びを実施した。参加者の雪遊びの満足度が高かったことから、県内だけでなく、県外に住む家族にとっては、赤城の冬の自然を満喫する内容となった。
- ②「読み聞かせ体験会」では、あたたかい雰囲気の中、子供を惹きつけるお話しや手遊びなど、充実した内容で良かった。
- ③「調理活動」では、自分で簡単に作れる工夫がされていたので、幼児にとって丁度良かった。

(4) 課題

- ①雪遊びプログラムを実施する場合、安全管理(人の配置や場の工夫など)の徹底を図る。
- ②幼児が参加する事業は、各プログラムの時間配分や全体の流れなど、余裕をもった活動にすることが必須である。

担当 企画指導専門職 田村 文明